

岩美町岩常集落「集落営農ビジョン」規模拡大型

作成日:令和2年 7月 9日

修正日:令和2年 月 日

市町村名	岩美町	組織名	農事組合法人 ドリームファームニ上
1 地区の範囲			
岩美郡岩美町 岩常地区			
2 地区の概要			
水田面積	36.7ha	主な水田栽培作目	水稻
農家戸数	65戸	認定農業者数	2経営体
		人・農地プランの中心となる経営対数	1経営体
3 組織の概要			
設立時期(規約等の制定日)	平成26年12月13日	構成農家数	62 戸
組織形態(該当形態に○を記入) ・共同利用型 ・受託作業型 ○協業経営型			
4 集積(経営、機械の共同作業及び作業受託の目標)			
	【項目】	【現状】	【目標】令和 5年 度
農地 の 集積	集積面積A	28.3 ha	29.1ha
	対象水田面積B	32.4 ha	32.4ha
	集積率A/B	87.3 %	89.8%
	地区外集積面積C	0 ha	0ha
	経営面積 A+C	28.3 ha	29.1ha
	世代交代への取組	世代交代への取組が遅れているのが、大きな課題である。	集落でのいろいろな会合を通して、若い世代の人に関わってもらい、その延長として集落営農に関わってもらおう。
	新規就農者の活動参画	特になし	特になし
5 添付資料			
集積状況一覧(別表1, 2)、機械の利用計画(別紙)、規約の写し及び計画の根拠が分かる資料(総会資料または、ビジョン作成話合いの議事録等)			
注1) 目標年度は、事業実施最終年度の翌年度から3年以内のいずれかの年度で設定すること			
2) 経営面積等の現状及び目標は、集積状況一覧(別表1, 2)より作成すること			

I 集落営農に対する基本方針

【集落営農の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】

1 担い手の明確化及び水田利用集積目標

岩常集落は岩美町の中央部西側に位置し、小田川に沿って河口の網代港から約5キロメートル上流にある70戸足らずの集落である。これまで、町内でも農業どころとして知られ、水田農業のほかにも花卉、ネギ、メロン、苺などに取り組む熱心な農業者が多かった。水稲は、農業環境等の変化に応じて岩常機械化組合、岩常営農組合、岩常営農生産組合へと組織を改変させながら、基幹的作業を受託し、集落の農地を維持してきた。

しかし、平成25年頃から高齢化が急激に進行したことによる後継者不足などから、水田農業を継続していくことが困難な世帯が増加した。

これを踏まえ、将来の農地維持についての検討を数年かけて協議してきた。岩常集落の活性化、地域の農業振興を発展的なものとするには、法人化したほうがよいという集落住民が多数を占め、岩常営農生産組合の機械・設備を譲り受ける形で、平成26年12月に農事組合法人ドリームファーム・二上が設立され、今日に至っている。

地域の対象水田面積は32.4haあり、現在農事組合法人ドリームファーム二上が28.3haを集積している。昨今の状況では、高齢化が更に進み、若い世代は集落から流出したり、親の農業を継がなかったりして、法人への農作業委託依頼は増加する等、地域の農業事情は大変厳しい状況にある。今後、集積面積を29.1haへと規模を拡大しながら、地域の農地が耕作放棄にならず、水田としての機能が果たせるよう法人が担い手としての責任を果たしていきたい。

2 水田の作付計画(水田以外の作物を含む)、活用方針・具体策

・水稲品種については、効率的かつ適期に作業が行えるよう、コシヒカリ・きぬむすめ・日本晴を作業分散を考えて作付する。

・飼料米(日本晴)の計画的な作付を行うことで、農業経営基盤強化準備金を有効活用し、農業経営の安定化を図る。

・昨年度は、業務用米(多収穫米)しきゆたかを試験的に作付した。今後も星空舞等の新品种、試験的作付にも挑戦し、この地域に合った、より収益増につながる品種の作付に組んでいきたい。

3 農業用機械施設の効率的利用

これまで、前組織(岩常営農生産組合)所有の田植機2台・コンバイン2台を利用し、オペレーター10人体制で計画的に作業を行ってきた。しかしながら、現在の田植機1台・コンバイン1台では作業効率が低下することから、適期田植え・適期刈り取り作業を困難となってきた。そこで、高性能のコンバインと田植機を導入することにより、作業効率の向上と適期作業を行えるようにし、集積面積の拡大へとつなげたい。

田植機には殺虫殺菌剤散布機(箱まきちゃん)と除草剤散布機(こまきちゃん)を取り付け作業の効率化を図る。併せて、上面と側面の2面刈り取りが可能な自走式の畦畔草刈機を整備し、高齢者等の労力軽減を図る。

4 世代交代、組織の継続者育成に関する方針

組合員のうち、オペレーターとして従事できるのは、10名である。10名の内、70代が1名。60代が6名、50代が3名である。しかし、65歳未満のオペレーターに関しては、その殆どが土日及び祝日のみが休日であり、平日の作業は困難である。オペレータの育成については、若い世代の人に集落でのいろいろな会合を通して関わってもらい、その延長として集落営農に関わってもらうようにして、計画的な育成を図っていく。

5 経営多角化の方針・具体策

ハウス栽培については3年前から試験的に行い、水田ではソバ・里芋・コンニャク等を栽培しているが、収益が上がっておらず、経営多角化は困難である。

II 農業用機械施設の整備方針

1 機械施設の整備計画

機械名	機械規格	台数等	金額(円)	購入 予定 年月	本事業による導入機械 に○
コンバイン(4条刈り)	クボタ ER460SD4M PFWE-C	1台	6,681,000(税別) 7,349,100(税込)	R2年 7月	○
スイスイデバイダー	クボタ ERM467	1台	119,000(税別) 130,900(税込)	R2年 7月	○
二面刈り自走式 畦畔草刈機	クボタ GC705RD-F	1台	253,000(税別) 278,300(税込)	R3年 4月	○